

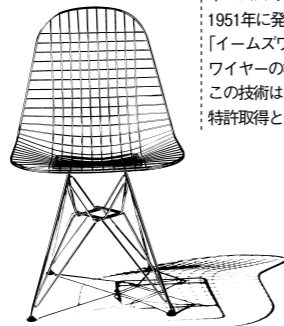
STYLING

MONO

プライウッド(成形合板)と共に
イームズの名を一躍世に知らしめたのが

1951年に発表された
「イームズワイヤーチェア」。

ワイヤーの折り曲げと接合によって形作られる
この技術はデザインにおけるアメリカ初の
特許取得となった。



VOL.06

Charles & Ray Eames Design Chair & Leg Sprint

SICE1944~

●特集[イームズ・デザイン]

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP)

Text/Teruhiko Doi(WPP)

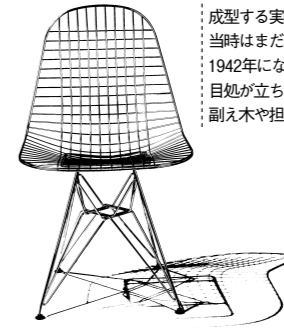
フィンランドのデザイナーである
アルヴァ・アアルトが開発した木材成形合板技術は
チャールズ・イームズやアルネ・ヤコブセンらによって、
歴史的な名作椅子となった。
特にイームズ夫妻はその技術を
家具だけではなく、米海軍の依頼を受けて骨折などで
負傷した兵士の脚部を固定する「副え木」にも活用し、
いまでもその芸術的形狀が高い評価を集める。
『レックスプリント』を開発。20世紀半ばに花開いた
新技術、新素材から生まれた新しいデザインの時代、
「ミッドセンチュリー・デザイン」を代表する
デザイナーとして語り継がれている。



STYLING

MONO

1940年代初頭、イームズ夫妻はベニアシートに熱や圧力を加えて成型する実験を繰り返していた。当時はまだ難しいとされていた技術だった。1942年になるとこの実験にある程度の目処が立ち、米海軍からの依頼を受けて副え木や担架の製作が始まった。



60年以上経ったいまでも、人々はなぜイームズ・チェアに美しさを感じるのか

デザインと芸術作品はその根底にある人間の、意欲の方向性に大きな違いがある。

芸術は内なる自分の表現を露出するための行為であり、そこに「人からどう見られるのか？」という発想は介在しない。というか、してはならない。

一方、デザインは「人がどう快適に使えるのか」が、まず発想のスタートにある。

というか、そうあらねばならないものだ。

イームズ・チェアはプライウッド(成形合板)という素材があつてこそ生まれた椅子である。成形合板とはベニア板をプラスチック性の接着剤で重ねて貼り合せた多層構造の板で、軽量であると同時に自由な形での加工が容易な素材だった。

当時としては革新的な技術であり、プレス機を使った

機械加工で3次元の面を簡単に成形することができるようになった。

まだプラスチック素材が一般化する前の時代の話である。

そして、成形合板はデザイナーにとって腕を振るうべき

素材であり、同時に大量生産も可能な素材であった。

特筆すべきは全体のフォルムに近い形の成形を施すことで

省略することができたこと。このアイデアによって

製品自体の重量が軽減されることになった。

パーツごとの修理も簡単で、工場の負担だけではなく

大量生産による低価格化でユーザーの負担も軽くした。

成形合板にイームズ夫妻が与えた形は機能的で美しく、

以後の現代家具デザインの基礎となったのである。

事実、ニューヨーク近代美術館はイームズ・デザインの

プライウッドチェアを永久コレクションとし、

タイムマガジン社は「Best Design of the 20th Century」

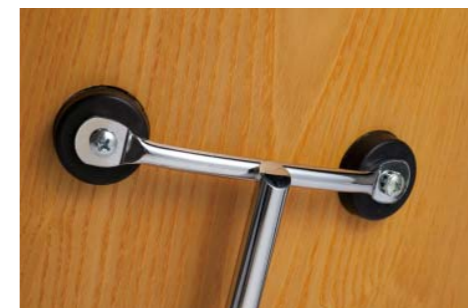
最上級の賛辞を浴びせた。

しかし、何より賞賛されるべきは椅子としての快適性である。

座面や背もたれに配された人間工学的カーブは

それまでの木の椅子からは得られない心地よさがあり、

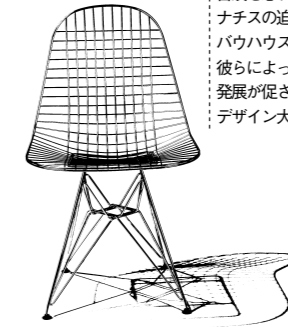
その感性は時代を超えて褒め称えられている。



STYLING

MONO

ミッドセンチュリー・デザインについて
言及を忘れてはならないのは
ナチスの迫害を逃れてアメリカに渡った
バウハウスの人々。
彼らによって、アメリカンデザインの
発展が促されたことは事実であり、
デザイン大国の礎に大きく影響を与えた。



イームズ プライウッドラウンジチェア メタル レッグ(LCM)

1940年にエーロ・サーリネンとの共同名義で
応募したMoMA(ニューヨーク近代美術館)
『オーガニック家具デザイン・コンペ』におい
て、イームズ夫妻とサーリネンがデザインし
たオーガニック・アームチェアは高い評価を
得て受賞した。この初期型モデルはしかし、い
くつかの障害や未完成部分があって製品化は
なされなかった。世界大戦の影響が少なくな
かったのだろうと推察される。終戦を迎えた
1945年、満を持して「イームズプライウッド
ラウンジチェアLCW」が量産モデルとして登
場。以後、イームズ夫妻の手によって名作家具
が次々と世に送り出されることになる。この
ページで紹介しているイームズプライウッド
ラウンジチェアLCMは、1945年デザインの
初期型モデルLCWの脚部がメタルに変更さ
れたもの。金属と合板部の接点にゴム製のシ
ョックマウントを採用し、工場生産性と強度
の問題が解決されている。その機能をデザイ
ンで処理した美しさも見事である。この椅子
は1957年までハーマンミラー社で製作され、
近年になって再び同社から復刻された。
価格 9万300円(ライトアッシュ)



STYLING

MONO

「レッグスプリント」は終戦と同時に本来の目的を終えていたが、後年、多くのデザインコレクターによって、その芸術的なスタイリングが話題となりコレクターアイテムとなっている。



ミッドセンチュリー・デザインはなぜ20世紀半ばのアメリカで誕生したのか

第二次世界大戦後のアメリカが得た最大の利益は、ほぼ無傷の国土が残ったことではないだろうか。焦土と化したヨーロッパが復興に向かう中、アメリカには無傷の生産力が残った。同時に戦争によって産業技術が洗練され、生産性の向上や新素材の開発が積極的に進められたことで、アメリカは世界産業の中心に躍り出たのである。低コストで大量生産を可能にする技術はアメリカが世界をリードし、戦後の復興機運は世界中での需要を喚起する追い風ともなった。

一方でアメリカにはナチスの迫害を逃れたパウハウスの人々が多数やってくる。パウハウスのデザイン活動を大きく飛躍させたマイヤーが、公然たる共産主義者であったことで、ナチスに敵視されていたからである。パウハウスの人々によってアメリカがデザインの本場になったことで、1940年代以降のアメリカ製品からは優れた工業デザインが多数誕生することになった。

こうして1940〜60年代にかけてアメリカでムーブメントとなったインダストリアルデザインが、「デザイン史における『ミッドセンチュリー』」となるのである。

歴史的に見て、軍需産業は多くの名品誕生のきっかけとなっている。当時、自由な曲線や曲面を低コストで量産できる成形合板の可能性に期待し、その実験を続けていたイームズ夫妻も、米海軍からの依頼で実用的な合板製品の開発に着手する。彼らがデザインしたのは負傷した兵士の脚部を固定する「レッグスプリント」という製品だった。ギプスなどの手厚い治療が困難な戦地において、このレッグスプリントという副え木は、包帯や布だけで負傷した足を固定する機能を持っていた。骨折時などにおいて迅速な患部固定を実現したのである。折しも太平洋戦争時が勃発して米海軍からは大量の発注があったという。

イームズ夫妻にとって幸いだったのは、軍部との開発現場で当時の最先端技術を学べたこと。イームズ・チェア初期型モデルの問題点をこの時期に解消して、戦後すぐに量産モデルの「イームズプライウッドラウンジチェアALC-W」が発表されることになったのである。ミッドセンチュリー・デザインの隆盛、その代表とされるイームズ・デザインからは、そんな背景が見えてくる。



Photo/Library of Congress



上:レッグスプリントを装着するための説明写真。その使い方がひと目で判る。本体写真:成形合板の本体は非常に軽量で、いま現物を手にしても、当時の最先端の技術で加工されていたであろうことが想像できるほど、完成度は高い。本体には「Molded Plywood Division LA.CA」の文字と、当時の製造会社名「EVANS」の商標が刻印されている。右下の写真は珍しい梱包状態の写真。

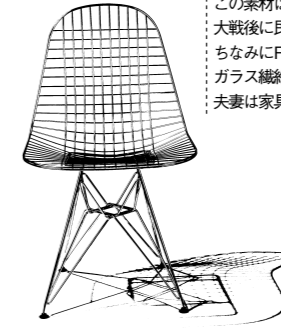
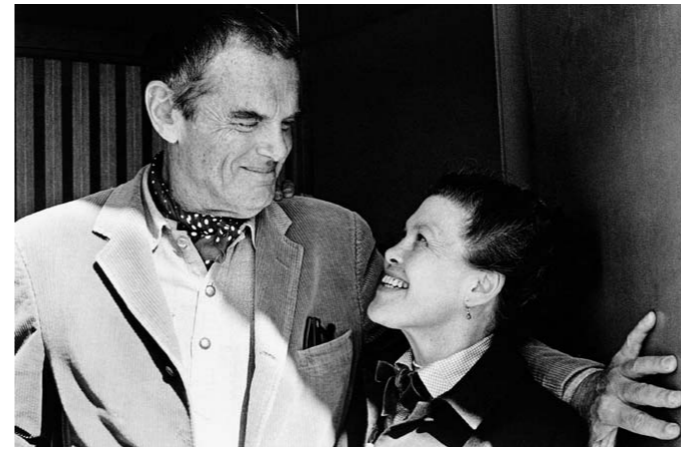


Photo/WPP Archives

STYLING

MONO

成形合板とは別に、イームズ・チェアを代表する素材がFRP素材。
この素材は、大戦中は軍事目的で使用され、大戦後に民間へとスピノフされた。
ちなみにFRPとは、ガラス繊維で強化したプラスチックのこと。
夫妻は家具への適応性にいち早く着目していた。



イームズシェルサイドチェアDSS
最もシンプルなシェルチェア。
スタッキングや連結が可能な完成されたデザインが魅力。
価格 2万9400円



イームズシェルサイドチェアDSR
開発当初のFRP素材から現代は環境に配慮した素材、ポリプロピレンがシェル部の素材として採用されている。
価格 3万2550円



イームズワイヤーチェア
シートフレームと脚部はクローム。シートやバックパッドに皮革のパッドを貼った高級タイプもある。
価格 9万1350円(パッドなし)



イームズシェルチェア in Pink
1950年にハーマンミラーが製品化したイームズシェルチェア。
今年3月から発売されたピンクのシェルチェアは、限定300脚の販売。
価格 3万5700円



イームズシェルアームチェアDAX
アームまで一体成形したシェルチェア。
1948年にニューヨーク近代美術館が開催した「ローコスト家具デザイン国際コンペ」でデビューして、一世を風靡した。
価格 3万8850円



イームズシェルアームチェアRAR
シェルチェアでありながらも、脚部にRを配しロッキングチェアとしてデザインされたもの。
その座り心地のよさは格別
価格 6万7200円



イームズシェルアームチェアDAW
シェル部分だけではなく、脚部のデザインが特徴的なシェルチェア。
価格 5万9850円